

## □ 要請番号 (JL56318B03)

募集終了



国名	職種コード 職種	年齢制限	活動形態	区分	派遣期間	派遣隊次
ブルキナファソ	G182 小学校教育		グループ型	交替2代目	2年	・2019/2 ・2019/3

## 【配属機関概要】

## 1) 受入省庁名 (日本語)

国民教育・識字省

## 2) 配属機関名 (日本語)

サポネ第1基礎教育区事務所

## 3) 任地 (バゼガ県サポネ市) JICA事務所の所在地 (ワガドゥグ)

任地からJICA事務所までの交通手段、所要時間 (バスで約 1.0 時間)

## 4) 配属機関の規模・事業内容

配属先はサポネ市にある2つの基礎教育区の1つで、主に中心部の小学校28校を管轄している。主な業務は、教員の授業進捗状況の管理や指導方法に関する監督である。JICAでは2008年より理数科現職教員研修改善プロジェクト(SMASE)を約6年間実施し、配属先の視学官を始め多くの関係者が関連研修を受けている。小学校教育の青年海外協力隊員(JV)が2020年1月まで活動予定。同市ではコミュニティ開発JV(NGO)と看護師JV(保健局)が2019年9月まで活動する予定である。

## 【要請概要】

## 1) 要請理由・背景

同国では、一般に一方的な詰め込み型の指導方法に偏り、児童自身の考える力や学習意欲を引き出す授業がなされていない。教育省本省や基礎教育区はこの問題を認識し、「児童中心の教育」を推進しているが、そのアプローチ方法について現場レベルではまだ理解度が低く、実践方法も明瞭に提示できていない。このような課題に対応すべく、これまで複数の小学校教育JV等が、配属先の教員等と共に教員間の勉強会や授業研究を実施して「児童中心の教育」の質の向上と定着を図り、一定の評価を受けてきた。前任者が配属先でこれらの活動を始め、その活動を継続するために今回の要請があがった。

## 2) 予定されている活動内容 (以下を踏まえ、隊員の経験をもとに関係者と協議して計画を立て、柔軟に内容を変更しながら活動を進めます)

児童自身の考える力や学習意欲を引き出す「児童中心の教育」の実践を目指し、配属先関係者、小学校校長、教員等と共に、以下の活動を行う。

1. 小学校の教育現場を巡回して授業の実態を調査し、特に教員の「児童中心の教育」の理解度や課題を把握する。
2. 算数・理科の教科に関して「児童中心の教育」の実践をモニタリングし、教員が正しく理解し活用するための研修や勉強会を提案する。
3. 算数・理科の教材開発や指導方法改善のための知識を伝え、共有する。
4. 前任者が始めた野球指導についても継続を期待されているため、余力があれば放課後等に普及を目指す。

## 3) 隊員が使用する機材の機種名・型式、設備等

特になし

## 4) 配属先同僚及び活動対象者

視学官:男性・40代  
 教育顧問:男性・40代・2名  
 小学校校長:40-50代  
 先生:20-50代

## 5) 活動使用言語

フランス語

## 6) 生活使用言語

フランス語

## 7) 選考指定言語

### 【資格条件等】

[免許]：(教諭免許(校種・教科不問))

[学歴]：( ) 備考：

[性別]：( ) 備考：

[経験]：( ) 備考：

### 任地での乗物利用の必要性

自転車

### 【地域概況】

[気候]：(サバナ気候) 気温：(15～45℃位)

[電気]：(不安定)

[通信]：(インターネット可 電話可)

[水道]：(なし)

### 【特記事項】

インターネット・電気などのインフラサービスは一応存在するが、完全ではない。水は近くにある井戸を使用。自転車の利用は可能性として有り。住居は、同任地JVと同居もしくはホームステイの可能性もある。